

物心両面から

社員の仕事人生を豊かにしたい

新運輸株式会社

代表取締役社長 中島弘恵さん

住 所…大川市大字鬼古賀189-1
TEL…0944-881-2752
FAX…0944-881-2757
H P : <http://arataunyu.co.jp/>

今月の夢追い人は新運輸(株)の中島さんにお話を伺いました。

新運輸は昭和38年に創業し、今年60周年を迎えた大川の運送会社です。

「創業以来、家具の一大産地である大川市を拠点に、家具やインテリア商品に特化した、運送、倉庫業務などそれぞれの物流サービスを構築して参りました。現在は75名前後の従業員がいます。運送業ではありませんが、大川の家具を一本でも多く届けたいとの思いから当社では、他社と提携して個人宅に家具を配送して、家具の設置まで行う開梱設置のサービスも行っています。ドライバーが家具を設置するサービスは好評で、現在の新運輸の大きな柱の一つになっています」

また新運輸という社名の由来についても伺いました。

「日々新也(ひびあらたなり)という、中国の古典にある言葉が由来です。日々新しく、絶えず進歩していくという思いが込められています。創業当時は、事故が多くこのままじゃいけないと社名になったと聞いています」

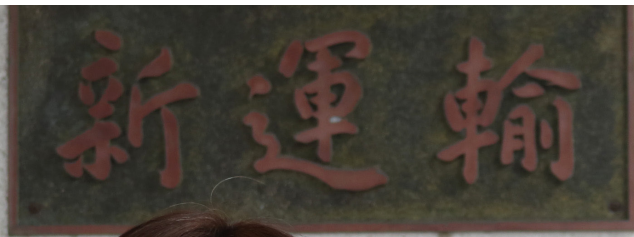
中島さんが入社されて30年以上、そして社長に就任されて5年が経過することのことでは会社を継ぐきっかけなどはあったのでしょうか。

「私は、6人兄弟の末っ子で、4人の姉と兄がいました。学校を卒業して会社に新入社員として入ってきました。その当時は父が初代の社長でした。私は元々、仕事が大好きで経営や営業を経験してきました。のちに兄が戻って来て、兄が引き継ぎ、経営をしてみました。その時私は営業課長であったのですが、前社長である兄が病気になるまで1年

で亡くなってしまいました。亡くなる直前には『お前ならできる』って何度も言うんです。正直、社長になるっていう覚悟なんてなかったです。ですが、できる、できないとか言っている場合ではなく、やるしか道はないという感じでしたね」

就任してからの5年は無我夢中だったとも話された中島さん。

「正直、社長になって何をしたらいいのかさえわかりませんでした。そのために経営理念を作ろうと思いましたが。当初は、かっこいい経営理念がいいと思いい、取引先の経営理念を見せてもらったんですが、しつくりこなくて。経営理念に従って追っていく目標が見つかるまでに1年かかりました。全然かっこよくもないですが、『安全第一』と『イキイキと輝く』『社会貢献』を



掲げさせてもらっています」

新たな経営理念を掲げる、日々業務に取り組みながら中島さん。そんな中島さんが社長として心掛けていることはなんだろうか。

「心と言葉と行動が一致する事を心掛けています。それは社員に向けてもそうですし、取引先に対してもそうです。難しいことではあるんですが、どれか一つでも欠けてもダメだと思っし、経営理念を決めるのも心と行動が合わないといけないので1年掛かったんだと思います。しかし、仕事なので本音ばかりでできないことはもちろんわかっています。だからと言っ飾り立てて良く見せようっていうものではなく、心と言葉と行動を一致させることが一番、従業員や取引先やお客様にも信頼できるのかなと思っしています。できていない事の方が多いかもしれないけど、大事にしていますね」

60周年を迎えた新運輸として心掛けていることや力を入れていることはなんだろうか。「運送業としてなによりも事故を起こさない事が一番です。ドライバーだけではありませんが、まずは社内、社外に『安全第一』の意味を示していくことが大事だと思っしています。そのために、社外の方等にも参加していただき、会議や勉強会などを定期的に行っしています。また、近くの田口小学校の生徒さんが通っ

通学路に当社はありますので、生徒の皆さんに大型トラックに乗っもらって、内輪差や死角、ドライバーからの見え方などを楽しく学んでらう機会を毎年1度はつくっしています。トラックを運転しているドライバーは危険じゃないですよ、ルールは守りましようねといったことを一緒に学んでらっしています。他にも生徒自身の似顔絵を描いてもらっ、その絵を荷台にラッピングしたトラックを走らせています。また、ドライバーも運転の際、少しでも落ち着いて運転できるような取り組みを行い、自分たちがそこに関わっ気づくことが大事だと思っます。

従業員は、会社のためというより、自分たちの生活や家族の生活のために働いてくれている要素が強いと思っます。家族を大事してらうことも仕事の取組みになると考えています。なので、最近は新型コロナウイルス対策で出来ていませんが、家族で参加できるイベントを多く開催してきます。うちの従業員やそのご家族、取引先のご家族や子供さん、うちに関わる人達をお招きして、いちご大福の生地を練るところから始まり、農家さんからいちごを買っきて、包んで大福を振る舞ったりする事もありました。また、年に数回カレーの日があり、前の日から仕込んで、従業員に振る舞うことも恒例行事と

して定着していませんね。家族ぐるみのお付き合いがあったからか、イベントに参加して来た従業員の子供が、現在では一緒に働いてくれていますね」従業員だけでなく、その家族とも良好な関係を築かれてる新運輸。2024年には運送業の雇用として大きな転換期を迎えることになること。

「物流業界では2024年4月に、トラックドライバーに時間外労働の上限規制が適用されるようになります。ドライバーの労働量が減少して、月間あたりに運べる積載量も減少してしまっます。運賃も減少し、売上に直結して、運賃を上昇せざるを得ない可能性もあります。また、労働量の低下や、少子高齢化で人手不足がより深刻化してしまっ可能性もあります。運送会社として労務管理には真摯に取り組んでいきますし、これからも続けていかなければならないと思っています」

人との繋がりを大切に日々業務に励まれている中島さん。そんな中島さんの夢はなんだろうか。「私が社長になっ、5年目が終わろうとしています。会社を経営していく上で、何もなっってことはいないんですよ。良いとき、悪いとき、山あり、谷ありで。初代の社長である父のときは、不眠不休のように働いて大きっして、2代目の兄は、バブルが終

わっって苦しい時代になっしまったけど、みんなで頑張って来たんです。今、会社にいる約3分の1の社員は私が社長になっからの社員です。今回60周年の式典を挙行して、そういう時代があっったからこそ、みんなが乗り越えたことを社員に伝えさせてもらいました。いろいろ不満があるかもしれないけど、この場で仕事ができる事に感謝しよう。本気で本音で伝えたい、自分の思いとこれから先の行動と向き合っながら、この先も仕事をしていきますし、社員にもそんな姿を見守ったいです。また、経営理念にも『社会貢献』を掲げていますので、ここ大川で、運送業として何か役に立ちたいなという事はいつも考えています。そのために自分を含めた社員の仕事人生を充実させたいです。物心両面、どちらも豊かにしたいですよ

ね。心だけ豊かでもいけないし、物だけ豊かでもいけないと思っます。そのために、会社を大きくしたい、だからといって負担を掛け過ぎないようにもしていきたいです。運送業として、自分たちが豊かで周りの人に優しく、丁寧に接していけるかが仕事の質、人としての成長に繋がると思っしています。飾り立てず、出来ることからやっしていきたいですね」



ラッピングされたトラック



社員のみなさんと